

わ く わ く

2月号



本 だ な



『 こんにちは、いたずらっ子エーミル 』
アストリッド・リンドグレン／作 ビヨルン・ベリイ／絵
石井登志子／訳 徳間書店
エーミルは、たいへんいたずらっ子です。はたをあげるはしらのてっぺんに、いもうとをぶらさげたり、スープのなべをかぶってとれなくなったり。さあ、今日はどんないたずらをするのでしょうか？

えほん

K913 『 ぜったいくだものっこ 』

たかどのほうこ／作 つちだのぶこ／絵 フレーベル館
「^{あおた}青田^{てん}くだもの店」のおくには、なぞのへやがあります。中では、お店からぬけだした、ミカンやリンゴの子どもたちがあそんでいます。じつは、このへやは、くだものたちがくどうほいく「くだものっこ」なのです。

1・2年生



K949 『 がれきのなかの小鳥 』

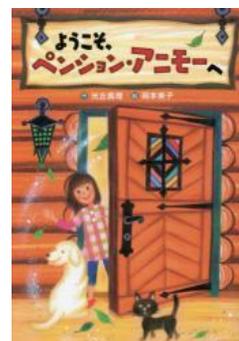
カーリ・ビッセルス／作 野坂悦子／訳
松本春野／絵 文溪堂
第二次世界大戦中、ユダヤ人は、ナチスの^{はくがい}迫害をうけていました。この本の主人公、エルスケもその1人です。
迫害をのがれるために、家族とわかれ、名前も学校もかえ、知らない人たちとのくらしがはじまりました。

3・4年生

K913 『 ようこそ、ペンション・アニモーへ 』

光丘真理／作 岡本美子／絵 汐文社
^{にいな}新菜と^{はな}両親は、都会を離れて、^{やまおく}山奥でペンションをはじめました。最初のお客様は、家族と離れて暮らしている鈴木さん。しかし、新菜は鈴木さんをもてなすうちに、その正体はクマだと気づいてしまいます。

5・6年生





えほん

『ボタンちゃん』
小川洋子／作
岡田千晶／絵
PHP研究所



えほん

『くれよんがおれたとき』
かさいまり／さく 北村裕花／え
くもん出版



えほん

『いちばんのなかよしさん』
エリック・カール／作 アーサー・ビナード／訳 偕成社
あなたのいちばんのなかよしさんは、だれですか？ある日、ぼくのなかよしさんが、いなくなっていました。なかよしさんを、さがしにいかなくちゃ！どんなところも、なかよしさんのためならこえていけるのです。

ちしきの本

K625 『くだものと木の実いっぱい絵本』
ほりかわりまこ／作 三輪正幸／監修 あすなろ書房
ネコがすきなくだものの木はなんでしょう？答えは、キウイフルーツ。くだものが大さな4人かぞくが、きせつごとのいろんなくだものをしょうかいします。おいしいデザート の作り方もありますよ。



ちしきの本



K930 『「エルマーのぼうけん」をかいた女性ルース・S・ガネット』 前沢明枝／著 福音館書店
多くの人がわくわくしながら読んだ物語、『エルマーのぼうけん』。この物語はどうやって生まれたのでしょうか？
作者にインタビューして、どんな子ども時代をすごしたのか、どうしてこの物語を書いたのか、聞いてみました。

ちしきの本

K487 『あしをなくしたウミガメ悠ちゃん 人工ヒレで泳げるように！』

中谷詩子／文 蔵前りつ子・堀江篤史／絵 学研プラス
2008年、日本の海で、前足が食いちぎられたアカウミガメが見つかりました。ウミガメの保護活動をしている亀崎さんは、カメを助けたいという少年の思いにうたれ、人工の前足を作ることにします。

